

# 有害鳥獣被害から暮らしを守れ

町長

被害防止策を強化していく



加藤 紀之 議員



注意喚起の看板

【加藤】農業者から有害鳥獣による農作物への被害は頻繁に耳にするが、そうではない人からは道路に対する被害を聞く。イノシシが掘り起こした石が路面に落石となって転がっていて危険なことがある、というものだ。

有害鳥獣の駆除で被害を抑制しつつ、何かの際にはしっかりと対応する必要がある。落石についてはどう対応し、抑制という観点からはどう考えるか。

【町長】農免道路の一部で落石がある事は認識している。パトロールで発見した場合などには撤去するとともに、注意喚起の看板を設置し対応している。

農作物被害を防止するため、猟友会と連携し有害鳥獣の捕獲に取り組んでおり、引き続き強化していく。

落石が多い場所については何らかの対策を行っていきたい。

## 既存集落を守る取り組みを

町長  
地域の特性に合わせて展開していく

【加藤】近年、山陰道の各インターチェンジ周辺では官民それぞれによる宅地造成などが進んでいる。移住・定住の面では喜ばしいが、将来的に懸念されることもある。

大きな団地に若い世代が同時期に暮らし始め、数十年後に大きな課題を抱えた事例が全国に見られるからだ。また、親と同居している若い世代が新しい宅地に出てしまうことで、集落から活気が失われてしまう事例もある。

既存の集落を守るための施策を考えるべきではないか。

【町長】てくてこプロジェクトや地域自主組織の活動で、地域の活

気を呼び起こす取り組みが始まったところだ。

さらに、空き家の活用による活性化策として、慶応義塾大学などとの共同研究を進めており、各地域の特性に合わせた取り組みを進めたい。



新しい住宅が立ち並ぶ大山インター周辺